



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四三〇号）

立冬 りゅうとう
十一月七日

伊勢ゆかりの刀工

旧暦十一月八日は、鍛冶屋や鋳物師などが仕事を休み、「ふいご」にミカンや酒などを供えて神に感謝した「ふいご祭」。ふいごとは、金属の熱処理などに用いる送風器で、足で踏むものは、「たたら」と呼ばれます。三重県総合博物館（みえむ）で開催中の刀剣展で、津の鉄工所から寄贈された「ふいご祭」の設えが展示されていました。

開館十周年記念の刀剣展は、三重県ではじつに六五年ぶりの刀剣関連の開催で、三重県で作られた刀剣を中心に六九振りが展示されています。今回、三重ゆかりの刀工を新たに知りました。桑名在住の村正は徳川家に仇なす妖刀といわれるほど著名な刀工ですが、その北の村正に対して、南を代表するのが、玉城町田丸の永貞ながさだといえます。永貞は一八一八年美濃国（岐阜県）生まれ、初めは野鍛冶でしたが、のちに赤坂千手院派せんじゅいんはに作刀の手ほどきを受け、独自の鍛え方を研究し、新々刀の上手といわれるほどになったといえます。安政七年（一八六〇）二月から一年三ヶ月ほど、津や田丸で作刀をしていたようで、刀には「伊勢田丸作之」と年紀とともに銘が切られています。

「神都住人」と銘を切る刀工もいました。本名は神内喜市で一雲齋を名乗りました。この人物は、伊勢山田に住み、伊勢神宮の御造営の際、金具製作を行う忌鍛冶の職人だったようで、その余暇に刀を作ったと考えられています。注文したのは山田奉行所の同心どうしんであることが銘からもわかります。当時の伊勢の様子がうかがえます。

そして、山田奉行所があった小林にも刀工はいたようです。「勢州小林作」と銘の入った刀を作ったのは、天龍子久一。今回の刀剣展で、江戸時代末には伊勢に刀工がいることがわかり、とても興味深く思いました。「三重の刀とその刀工」は、十二月一日まで。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢おかげ嬉楽祭

「歌(うた)」の語源は一説によると「嬉(う)れし・楽(た)のし」とか。

おかげ横丁では、新嘗祭を奉祝して、伊勢の伝統音楽と、縁のアーティストが奏でるミュージックの出会い・共演のお祭りを伊勢の神様に奉納いたします。

伊勢の深秋の風に吹かれて心に染みるひとときをお過ごしください。

日 時／11月16日(土) 16:30～20:30 (開場15:00)

場 所／おかげ横丁一帯

入場券／【前売A】5,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,500円分 + 嬉楽祭Tシャツ + ステッカー

【前売B】3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,500円分 + ステッカー

【当日券】3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,000円分 + ステッカー

※小学生以下入場無料

○ 奉祝新嘗祭 第四回神恩感謝 三重新酒祭

11月23日、神宮では新嘗祭が執り行われます。

おかげ横丁では、今年の収穫を感謝して新酒を奉納し、皆様にご披露する直会の宴を開催いたします。今年の豊かな恵みを存分にお楽しみください。

日 時／11月23日(土・祝) 15:00～18:00

場 所／おかげ横丁一帯

入場券／【お楽しみチケット】 前売券 4,000円 (当日券 5,000円)

※15:00～ご利用いただけます。

※10枚綴りで1枚につき日本酒1杯又は、500円分の料理やテイクアウトメニューに使えます。

【飲み比べ券】 前売券 5,000円 (当日券 6,500円)

※日本酒の3時間(15:00～18:00)飲み比べにご参加できます。

お問い合わせ／おかげ横丁 総合案内「おみやげや」 電話 0596-23-8838

五十鈴塾

○ 宇治の町巡り

大昔から神宮と深い関係のあった宇治の町、そここに歴史を物語るものがあります。宇治で生まれ育った山中先生と巡りながら昔の姿をしのんでみる企画です。

まずは町の入口であった宇治惣門跡にまいります。猿田彦神社から御幸道路を内宮方面へ、慶光院墓所、守武墓所へ参ってから内宮の方に行くと神宮の饗土橋姫神社をはじめとする摂社末社があります。おはらい町に入り、「こんなものあったっけ、これってそうなの」と驚く遺跡や建造物を先生の丁寧な解説を聞きながら再発見していきます。

日 時／11月13日(水) 10:00～12:00

場 所／宇治の町界隈

講 師／山中一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／ビジター 2,200円 会員 1,700円(保険料含む)

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

くり
栗かのこ

晩秋から初冬へと季節は移ろい、伊勢路の空に浮かぶのは明るく美しい月の姿です。大納言小豆に栗を置き、澄んだ秋の夜を表現しました。

もち
うずら餅

冬の足音が近づくと、野生の鶉が伊勢の里に姿を見せます。栗と粒餡を求肥で包み、愛らしい鶉の姿に仕上げました。

こう
紅葉

神路・島路の山々にも紅葉の季節が訪れ、山のふところには所々に鮮やかな赤みが見られます。二色のきんとんで山々の秋を彩りました。